

木村 信乃 会長より

みなさん こんにちは！お変わりありませんか。
私たち只今大変な時代を生きていますね。すごい物価高？ コロナ、統一教会、ウクライナ問題胸が痛いですね。人類史上、未曾有の危機に直面しています。突然与えられたこれまでと違う生活で、当たり前のありがたさに気づかされる時間を過ごしています。

この状況の中、桜栄会 Zoom での研修会は 3 回目を迎え成功裡に終了しました。Zoom での会はこれきりとおもいながら状況は継続が当たり前になりつつあります。この方法に慣れていくことも大事になってきています。これまでとは違う新しい発想で、会を運営していかなければなりません。それは、つながりを切らない交流の模索です。今後は、ICT を活用した展開も踏まえ、諸先輩方の想いを受け継ぎ、世代間を繋ぐ会の展開と発展を目指していく所存です。

かくいう会長の木村、とてもついていけないと思っていましたが、やればできます。パソコン、スマホ、なんとかものになっています。使えば使うほど便利ですね。飛行機の切符も上手につかえば北海道までの切符格安で購入できます。今年の夏、北海道マラソン出場時びっくりするほどの金額で購入しました。しかし即金額振込みでした。慣れていくことが大事と痛感です。

本年の研修会は、時代に反映して「管理栄養士に求められる介護予防・在宅支援活動を考える」表題でした。管理栄養士として広範囲の深い知識とスキルがいる事を改めて考えさせられ、学ぶこと、知ること、体験・経験することの重要性を認識しました。

さて本会運営については、さらなる会員増の努力を重ね、会員や関係各位の声に耳を傾け、ご支援とご協力を仰ぎつつ、意思をもって取り組んで参りたいと思います。今後とも同窓会活動にご理解とご協力を賜りますように切にお願いします。いつか県立大学でお会いしたいですね。会員の皆様のご健勝とご多幸を祈って会長挨拶にします。



下関海響マラソン 2022

山口県立大学栄養学科同窓会 桜栄会研修会を 栄養学科シンポジウムと合同で オンライン開催しました

令和4年(2022年)10月22日に、令和4年度桜栄会研修会・栄養学科シンポジウムが合同で開催されました。4名の卒業生からのご講演があり、家庭科教諭、企業、病院・山口県栄養士会長、地域包括支援センターの立場で活躍されている様子について、Zoomを通してお話いただきました。



来海結子さん(R3年卒)は、山口県立萩高等学校奈古分校で家庭科教諭として勤務されています。家庭総合、生活と福祉、フードデザインなどの授業を担当される中で、清掃活動やボランティア活動を通して地域との交流を育まれてきているようです。学生時代を振り返り、「多くの経験が将来役立つ。そのために意味がないことこそ挑戦。」というアドバイスをいただきました。

井上美紅さん(R2年卒)は、株式会社ヤクルト山陽(事業サポート課、広報チーム)で管理栄養士として勤務されています。健康維持に役立つ健康食品のお届けや、学校へ授業に出向いたり、地域(高齢者)見守り活動などに積極的に参加されたりしているそうです。また、広報の仕事を行うにあたり、情報の信頼性を見極める力を学生時代に身に付けておくことが大切とのことでした。



今年度の桜栄会研修会は、司会を乃木先生が担当され、パネルディスカッションの形式で行われました。野崎あけみさん、井上多智美さんにお話していただき、最後にパネラーや参加者との意見交換がなされました。





野崎あけみさん(S54年卒)は、総合病院山口赤十字病院の前栄養課長として働いておられました。高齢者の健康状態と栄養改善について、病院での管理がどのように行われているか教えていただきました。また、幅広い職種の方とのかかわり方や集団栄養指導など、これから地域で活躍する管理栄養士の活動についてお話いただき、多職種連携の重要性を学びました。

井上多智美さん(S57年卒)は東京都の地域包括支援センターで主任介護支援専門員として働いておられます。介護支援専門員という仕事が、対象者さんのケアプラン作成にとどまらず、医療や社会参加のニーズに応えることなど多岐に渡ることを知ることができました。またよりよい対人援助を実践するために、バイスティックの7原則を挙げて、対象者さんやご家族、行政へのはたらきかけについてわかりやすくお話いただきました。



(栄養学科3年 小山・野村・兵藤・平川・村田)



当日の進行やこの桜栄会通信の原稿は担当の在学生5名(3年生)が作成してくれました。当日は至らない点もあったかと思いますが、あたたかく見守っていただきまして、ありがとうございました。

参加者の感想

県栄養士会長の野崎さん、同期の井上さんのお話をとても楽しみに、今回の研修会へ参加させていただきました。私が市の自立支援型ケア会議に出席した時、栄養面での相談事は何処へ行けば栄養士さんに相談できるの？と聞かれた事を思い出します。お二人のお話から、地域に暮らす栄養サポートが必要な高齢者や要支援者に私たち管理栄養士の力を届けていなければいけないと改めて感じました。現在、私は総合病院と健康増進施設で栄養指導を行っており栄養と運動の両面から健康寿命延伸をサポートしています。同年代で活躍中のお二人から強力なパワーをいただき、私も頑張っていこう！と思いました。また、木村会長と足立先生のお変わりないお元気な様子を拝見できとても嬉しく思いました。桜栄会に感謝です。

昭和57年卒業 杉山(三木)正枝 山口市在住

今年度の桜栄会研修会では、主任介護支援専門員である井上さんと医療現場を経て現山口県栄養士会会長である野崎さんが、地域包括ケアシステムという共通項を双方の視点で対されていて、現在仕事で高齢者への栄養支援を模索している自分には大変興味深く何度も頷く内容でした。「バイスティックの7原則」など初めて耳にするものもあり、人と心と体の栄養を提供するために食事だけではなく作る過程やその人を取り巻く食環境に切り込んでいなくてはと改めて学んだ研修会でした。

平成24年卒業 大西(齊藤)有香 千葉県在住

現場で働かれている先輩方のお話を詳しくお聞きすることができ、管理栄養士を志す私たちにとって大変貴重な機会となりました。管理栄養士としてどのように働いていきたいのか、将来のために今すべきことは何なのか学生生活での過ごし方や就職活動への向き合い方を今一度見つめ直すきっかけとなりました。将来の自分の為に後悔のないよう日々研鑽を積んでいきたいです。

栄養学科3年 古川

介護予防・在宅支援についてお話していただき、地域包括ケアシステムにおける多職種連携の重要性を学びました。また、個別訪問栄養指導や地域の集団栄養指導の必要性とその難しさを知り、高齢者の方がその人らしく生きる支援ができる管理栄養士になりたいと感じました。今回の貴重なお話を忘れず、今後も学びを深めていきたいです。

栄養学科3年 小西

編集後記

今年度の研修会は、会員と在学生を合わせて約100人の参加を得て、先輩から後輩への直球での熱いメッセージに、栄養学科同窓会の繋がりを感じることができました。来年度こそは新キャンパスで皆さんと会えますように！ ご意見ご要望等、事務局のメールアドレス oueikai@yamaguchi-pu.ac.jp にお寄せください。 乃木